

核兵器廃絶市民講座 第4回
パグウォッシュ会議世界大会を
控えてー若者と語る

<WEB掲載用 画像削除版>

小沼通二(こぬまみちじ)

2015年10月17日13:30～15:30

平成27年度 核兵器のない世界を目指して

主催:核兵器廃絶長崎連絡協議会・共催:RECNA

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館・交流ラウンジにてWEB

被爆70年

- ラッセル・アインシュタイン宣言60年
- 湯川・朝永宣言から40年
- パグウォッシュ会議ノーベル平和賞20年
- パグウォッシュ広島大会から20年、10年

- 沖縄戦70年
- 国連発足から70年
- バンドン会議 平和共存5原則 60年

歴史

- ラッセル・アインシュタイン宣言を受けて発足
- 第1回会議 1957年7月7～10日 パグウォッシュ(カナダ、ノバスコシア州)にて Appraisal of Dangers from Atomic Weapons
- 第61回会議 2015年11月1～5日 長崎
Nagasaki's Voice: Remember your Humanity
- ほかに多数のSymposia, Workshops, ...
- 2007年までに331回の会議
- International Student/Young Pugwash Pre-Conference 1997年～ ISYP group はそれ以前から

R・E宣言が述べたこと(1/2)

科学者は、大量破壊兵器の発達をもたらしている危険性を討議し、発言すべきだ

われわれは、どの国民や大陸や信条の一員かということだけでなく、大量破壊兵器の発達の結果、存続が疑問視されている人類の一員として発言。

ビキニ実験以来、核爆弾は想像されていたよりはるかに広い地域に 徐々に破壊力を拡げることが分かった。

核兵器が人類の存続を脅かしている。

R・E宣言が述べたこと(2/2)

水爆を使用しないという協定を結んでも、戦争が起こればすぐに、水爆製造を始めるだろう

人類の一員であるということだけを心にとどめて、それ以外のことはすべて忘れよ

私たちは世界の諸政府に、彼らのあいだのあらゆる紛争問題の解決のための平和的手段を見いだすよう勧告する。

科学者会議 パグウォッシュにて開催 1957

- 22名（内物理16、化学2、生物1、医2、法1）
- 米7、ソ3、日3（湯川、朝永、小川岩雄）、英2、カ2、仏、オーストリア、オーストラリア、ポーランド、中国 各1
- テーマ：核兵器の危険性、放射線の危害、科学者の社会的責任
- 参考：J. ロートブラット「パグウォッシュ会議の誕生」パリティ2002年2月号

日本グループ

- 第1回会議の後で発足
- 第2回会議に意見送付
- 1962～1981 科学者京都会議
- 1975 京都、1989 東京
パグウォッシュ・シンポジウム
- 1995 広島、2005 広島、2015 長崎
パグウォッシュ会議世界大会

1995年 ノーベル平和賞

- J. ロートブラットとパグウォッシュ会議
- 授賞理由：国際政治の中で核兵器が演じる役割を減少させ、その先に廃絶させるための努力に対して
- 受賞講演
- J. ロートブラット：人間性を忘れずに
- パグウォッシュ会議（J. ホルドレン）：冷戦後の世界における軍備制限と平和構築

パグウォッシュ会議の特色と運営

- 参加はすべて個人の資格、組織代表でなく個人の発言
- 報告を聞いて帰る会ではなく、その場で異なる意見の間の討議、新しい構想、結論は毎回「評議会声明」の形で、宣言は特別の場合、国連、各国政府、世界の科学者に呼びかけ。
- 「宣言」は重要な節目に
- 公開部分と非公開部分
- 出席者数制限。継続性と世代交代のバランス
- 学生・若手グループ
- 評議会と執行委員会
- 財政

第61回パグウォッシュ会議長崎大会 一般公開プログラム

- 11/1 13:30～18:45
- 開会あいさつ: 会長 事務総長 組織委員長
- 特別講演: 外務大臣(交渉中)
- 核兵器の非人道性
- 核兵器のない世界への道: 核軍縮の展望
- 講演: 包括的核実験禁止条約の前進
- 非核兵器地帯および非大量兵器地帯の展望

- 11/3 14:00～17:00
- 原子力の平和利用がもたらすリスク
- ドロシー・ホジキン特別講演

第61回パグウォッシュ会議長崎大会

非公開部分ではなにをするのか

- 11/1
- 被爆者との対話
- 平和祈念館・原爆資料館・平和公園・(一部)城山小学校
- 11/2、11/4 テーマごとの8グループに分かれて討論(9時間)
- 11/2、11/3、11/4、11/5 全体会議
- 事務総長の活動報告、会長講演、
- 南アジアの核の危険性、アフガニスタン・パキスタン問題、イラク・シリア・“イスラム国”など、イランの核問題、軍縮への希望と展望、次になにを
- 長崎宣言(午後、報道機関に公表)

歴史を見れば、変化は起こる

- 核兵器のない世界（非核兵器地帯、非核兵器地位国）
- 戦争をしない世界（日本では武装解除3回：秀吉の刀狩、明治維新、敗戦と占領）
- 話し合いで解決しない領土問題は凍結を（南極）
- 軍隊を警察にかえる世界（日本（逆行？）、コスタリカ）
- 国家の役割が減少する世界（多国籍企業、ヨーロッパ）
- 国連におけるNGOの役割を増し、協調の初心に戻す（国連憲章、対人地雷禁止、クラスター弾禁止）

付録：もっと学びたい人は

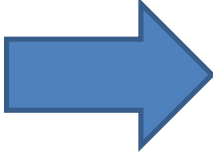

関係資料を見るには

- www.pugwash.org
- www.pugwashjapan.jp
- www.pugwashjapan.jp/old/
- www.worldpeace7.jp



原子核を解明してきた科学者

- 1896 ベクレル 放射能の発見
- 1898 マリー、ピエル・キュリー ラジウム発見
- 1905 アインシュタイン エネルギーと質量
- 1912 ラザフォード 原子核の発見
- 1932 ハイゼンベルク 原子核の構造
- 1934 湯川秀樹 原子核の力
- 1938 ハーンほか 核分裂の発見
- **1939** ジョリオ・キュリー フェルミ 連鎖反応

核兵器開発

- 1939 原子核の力を兵器に使う可能性 周知 
- 1939 アインシュタインが米国大統領に書簡
- 1939 第2次世界大戦勃発
- 核兵器研究開発 米、英、ドイツ、日本
- 英国にいたドイツからの亡命者が 技術開発 (ほかの国では成功しなかった)
-  米・英・カナダ協力 マンハッタン計画
- 日本:基礎研究のみ ウランがない ほかの国もすぐには作れないだろう

マンハッタン計画内で

- アインシュタイン 不参加(シラードに協力して米国大統領に書簡 1939、1945)
- 1944 ロートブラット 原爆開発の目的が敵国(独・日)でないことを知り、離脱
- 1945 フランク シラードたち 核兵器を使わせないための努力 フランク報告
- シラード 事前通告提案 無人島での公開爆発案 採択されることはなかった
-  広島・長崎  ビキニ

広島・長崎以後

湯川秀樹

- 国家目的とそのための手段は、人類全体の福祉と背馳しないことが必要 国々は人間と世界を媒介する一つの中間的存在

1945-10

- 和歌集『深山木』より 「原子雲」
今よりは世界ひとつにとことは(わ)に平和を守るほかに道なし
この星に人絶え果てし後の世の永夜清宵何の所為ぞや

1945

B. ラッセルと A. アインシュタイン

- ラッセル 1945年以来、原爆のもたらす危険性について繰り返し発言
- アインシュタイン 全体的破滅を避けるという目標は他のあらゆる目標に優位せねばならぬ
1948

R・E宣言への道、日本の科学者

- 第五福竜丸などの**ビキニ被曝**
- 被爆者治療などのために、急きょ「死の灰」の成分の分析。東大、京大が網羅的に解析。
- 大量の放射能と大量のウラン237を確認。
- ウラン237は、水爆の起爆剤の核分裂の原爆（ウラン235かプルトニウム239）と水素の核融合からは出てこない。どこから来たのか??

湯川秀樹


- **人類の各員**が運命の連帯に深く思いをいたし、原子力の脅威から自己を守る万全の方策を案出し、それを実現することに、いままでよりも遙かに大きな努力を払わなければならない段階に入った。
- **科学者**として、より真剣に考える責任を感じる。**日本人**であるが故に、より身近に感じる。しかしそれは**人類の一員**として考えることと矛盾していないと信ずる。(一部省略)

毎日新聞1954年3月31日

R・E宣言への道、ロートブラットの解明

- 西脇安→ロートブラット 日本分析結果の情報
- ロートブラット:ビキニ水爆は、①起爆剤の核分裂、②水素の核融合に続き、③水爆を包んだ外壁にウラン238(天然ウランから濃縮によって、ウラン235を取り出した残りの劣化ウラン)を使い、これを核分裂させた時に、一部がウラン237に変わったと解明
- これによって爆発力と、放射能の量を増大させた

R・E宣言へ

- ロートブラット→ラッセルたち：水爆の危険性増大
- ラッセル：BBCラジオ 1954年クリスマス放送
- 感銘を受けたボルン→ラッセル：少人数の影響力のある科学者による警告の構想
- ジョリオ・キュリー→ラッセル：会議を開催しよう
- ラッセルがアインシュタインに相談
-  ラッセルが宣言案執筆
- 1955年4月 賛同者集め
- 1955年7月 R・E宣言発表

ラッセル→湯川→ラッセル

(京都大学基礎物理学研究所湯川記念館史料室所蔵)

5 April, 1955.

41, Queen's Road,
Richmond, Surrey,
England.

Professor Hideki Yukawa,
c/o Faculty of Science,
University of Kyoto,
Sakyo-ku, Kyoto, Japan.

Dear Professor Yukawa,

In conjunction with Professor Einstein, I am attempting to obtain from a small number of very eminent scientists (list enclosed) a statement about the dangers of thermo-nuclear war of which I enclose a draft. I should hope that the publication of such a statement, embracing men of the most diverse politics and from the most widely distributed parts of the world, might be the prelude to the carrying at an international scientific congress of a resolution more or less such as the one of which I enclose a draft. I think that in this way something might be done to persuade both Governments and public opinion that steps must be taken to avoid a thermo-nuclear war. I shall be very grateful if you will let me know whether you are willing to sign the enclosed draft.

Yours faithfully,

Bertrand Russell
(Bertrand Russell)

ラッセルからの参加要請
(s02-20-018)

湯川の受諾書簡
(s02-20-021)

April 19, 1955

Lord Bertrand Russell
41 Queen's Road
Richmond, Surrey
England

Dear Lord Russell:

I appreciate your great effort for the cause of benefit of mankind. I am willing to sign your statement.

I have just got a very sad news of the death of Professor Einstein, who had been so very influential in arousing the conscience of both scientists and non-scientists all over the world. We take it our duty to make an effort all the more eagerly in order to achieve the ideal which he cherished in common with you and to which we subscribe.

Yours sincerely,

Hideki Yukawa
Research Institute for
Fundamental Physics
Kyoto University

ラッセル・アインシュタイン宣言

1955年(ビキニの翌年)7月9日

B.ラッセルが ロンドンで発表

- M.ボルン(N物理学賞)
- P.W.ブリッジマン(N物理学賞)
- A.アインシュタイン(N物理学賞)
- L.インフェルト(物理)
- F.ジョリオ・キュリー(N化学賞)
- H.J.ムラー(N生理・医学賞)
- L.ポーリング(N化学賞・平和賞)
- C.F.パウエル(N物理学賞)
- J.ロートブラット(N平和賞)
- B.ラッセル(N文学賞)
- 湯川秀樹(N物理学賞)
- 独 米(4人) ポーランド
仏 英(3人) 日本

R・E宣言を受けて

- 日本では、日本学術会議、日本物理学会などが支持
- 1955年11月 **世界平和アピール七人委員会** 結成(下中弥三郎、湯川秀樹、平塚らいてうたち)
1957年7月 **パグウォッシュ会議**

パグウォッシュ会議の目標

- **パグウォッシュでの会議が成功→継続を決定**
- **核(大量破壊)兵器の廃絶**
- **戦争の廃絶**
- **当面の危険性の減少と除去のために**

パグウォッシュ会議での議論から始まった 核兵器の危険性の除去（軍備管理）

- 部分核実験停止条約へ
- 非核兵器国への核攻撃禁止
- 核兵器による第一撃禁止
- 核兵器不拡散(NPT)
- 戦略攻撃兵器削減(START)
- 非核兵器地帯
- 核兵器テロ防止
- 対弾道ミサイル制限(ABM)
- 中距離ミサイル廃止
- 首脳間のホットライン
-

日本でのパグウォッシュの会議(1)

1975と1989にシンポジウム

- 軍備管理の基礎には、**核抑止**による安全保障は成り立ちうるという誤った考え方がある。
- 核兵器を戦争や恫喝の手段にすることは、人類に対する最大の犯罪といわなければならない。
- 湯川・朝永宣言 1975
- 1989 東北アジアの安全保障

日本でのパグウォッシュの会議(2)

1995と2005に年次会議

- 冷戦終結後の今日、人類は核廃絶の目標に到達する機会を手に入れている
- 広島宣言 1995

パグウォッシュ会議の議論の広がり

- 核兵器以外の大量破壊兵器 化学 生物
- 通常兵器の危険性
- 科学技術協力などの国際協力の拡大
- 科学者と倫理
- 環境問題
- 地域紛争問題
- 国家以外のステークホルダー
- 各国のPugwash Group (日本は1957年から)
- 若手の役割 (International Young Pugwash)
-

1995年 ノーベル平和賞

- パグウォッシュ会議と
J. ロートブラット(当時の会長)
- 核廃絶への努力
- 広島宣言を評価
- 紛争の平和的解決を
- 人類の夢でない
現実的提案

国際連盟憲章 (1920年発効)

- <最初の文章>締結国は戦争に訴えざるの義務を受諾し・・・
- 第12条 紛争の平和的解決
- 日本は最初からの参加国


不戦条約 1928 パリ

- 第1条 戦争放棄
- 第2条 紛争の平和的解決
- 日本は最初からの参加国

国連憲章(1945年)

- 原則: 国際紛争は平和的手段によって解決しなければならない。武力による威嚇または武力行使を慎まなければならない
- 集团的自由権は、加盟国の自由な権利でない
- 第七章(39~51条)「平和に対する脅威、平和の破壊および侵略行為に関する行動」
 - 最後の第51条 安保理事会が必要な措置をとるまでの間の個別的または集团的自衛権の固有の権利<現実には、拒否権によって安保理事会が機能しない。しかし機能しなければ自由に行使してよいとは書かれていない>

日本国憲法 (1946年公布)

- 前文:・・・全世界の国民が、等しく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。
-  世界に敵を作らない
- 第9条戦争放棄 非武装 交戦権否定
- 世界各国は、日本が攻撃を加えることがないとみなしてきた。